

大阪有機化学工業株式会社	
2021年11月期第2四半期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2021年7月2日(金) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) *電話会議システム使用
当社出席者	・代表取締役社長 安藤 昌幸 ・取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2021年11月期第2四半期 決算説明会資料」(2021年7月1日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

### 【質疑応答要旨】

Q-1	電子材料事業で、1Qから2Qにかけて利益率が下がっている要因は？
A-1	投資した設備の償却が2Qから始まったこと及び、販売管理費が増えたことが要因です。
Q-2	特殊アクリル酸エステルで高純度品の期待する用途は？低純度品との違いは？
A-2	高純度品で最も期待している用途は、UVインクジェットインキ向けです。不純物があると塗膜性や硬化性に影響が出るので高純度であることが要求されており、当社の強みを発揮できると考えています。低純度品は印刷インキ用途や電子部品など各種コーティング剤に使われています。
Q-3	電子材料事業の中で、半導体材料の動向は？
A-3	上期で前年同期比約20%伸びました。またEUVは横ばいとなりました。
Q-4	電子材料事業の下期予想で売上高が減少している理由は？
A-4	ArF材料は下期にかけて横ばいと予想しています。LCDや、変動の大きいEUV材料などは堅調と予想しています。現在もArF材料は引き続き需要が高く、認定作業を進めています。
Q-5	市場的には下期にArF材料の需要が増えるとみられるが手ごたえはどうか？
A-5	下期での市場における不安材料は少ないですが、新設備の稼働率に依存することから、認定作業を着実に進めているところです。
Q-6	半導体の用途による伸び率の違いは？
A-6	今のところお客様からは、メモリもロジックも年間で2桁近い伸び率とお聞きしております。
Q-7	化成品事業で原料値上がりリスクについて。また、半導体不足による自動車減産

	の影響について。
A-7	ナフサが上がってきており価格転嫁を進めておりますが、若干のタイムラグが出てきます。上期は大きな影響は有りませんでした。下期から影響は出てくると予測しております。概算ですが原料費として2~3億円上昇すると予測しております。自動車塗料用向け販売については今のところ影響は見られません。
Q-8	1Qから2Qで販管費が増えている要因は？
A-8	八千代事業所閉鎖と、本社移転に伴う減価償却費が増加したためです。八千代事業所閉鎖で約3千万円、本社移転で約1千数百万の費用が増加しております。
Q-9	電子材料セグメントの利益率が下がった要因は他にあるか？
A-9	原材料の在庫が増えていることと新規設備で作った部分の収益性の低下によるものです。
Q-10	EUV材料の状況について。
A-10	EUV用の販売は横ばいでした。2020年度は前年比で200%以上伸びましたが、試作等のテストが落ち着いてきており、2021年の上期として数量は昨年同期並みとなりました。テーマ数や試作の数は増えておりまして今後も材料選定が続くと思っております。
Q-11	半導体材料の設備投資による生産能力の増強について。
A-11	ここ数年の投資で、生産能力は約2.5倍になっております。計画中のものも含めると約3倍になる見込みです。2023~2024年の需要に対応して供給体制を整えています。
Q-12	電子材料事業における原油上昇による原料費アップの影響は？
A-12	電子材料製品は原料費比率が化成品製品より低いため、影響度としては比べて少ない。
Q-13	電子材料事業のうち、FDPの状況は？
A-13	上期は数量ベースで対前年同期比10%増となりました。下期予想は上期に対して5~6%減で予測しています。特に市場での不安材料があるわけではない。
Q-14	有機EL、QD向けの開発状況は？
A-14	昨年発表した、有機ELフレキシブルディスプレイ用材料の開発は継続しているが、販売については数量ベースで昨年の半分くらいになっている。LCDが活況なので、ELに対するポテンシャルが下がっているのではないかと。QD用材料はテスト段階です。
Q-15	化粧品原料の状況。
A-15	昨年同期はコロナの影響で、売上が7割位まで下がったが、今期1Qで元に戻りました。Q2より事業譲受がプラスされ、前年同期比で60%強増となりました。下期は前年比で2倍強を見込んでおります。

Q-16	電子材料事業の売上げが伸びてきている背景
A-16	表示材料、半導体材料ともに伸びています。ArF 用途の材料も従来の用途以外にも使われてきていてさらに伸びています。
Q-17	機能材料事業の状況と投資について。特殊溶剤の伸びは？
A-17	機能材料のうち、事業譲受した頭髪用ポリマーについては将来投資が必要になる可能性があります。 特殊溶剤については、上期は対前年比 20%増。下期も上期より 10%程度の伸び率を予想しています。

以上